

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	富山市恵光学園		
○保護者評価実施期間	令和6年11月25日		令和6年12月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21 (回答者数)	13
○従業者評価実施期間	令和6年12月13日		令和6年12月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2 (回答者数)	2
○訪問先施設評価実施期間	令和6年11月25日		令和6年12月27日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	20 (回答者数)	19
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月5日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	療士が専門的な知識を持って訪問先に行き、利用児の支援ができる。	療士が得意とする、姿勢、運動、生活動作、遊びなど、日常生活の中で楽しみながら行えるよう意識的に支援している。	支援の仕方を訪問先の先生方に詳細に伝え、実際の場面でいながら、学んでもらえるよう取り組んでいく。
2	利用児を知るために必要な専門的な検査や評価ができる。	必要時には、医療機関や同園の多職種と連携を図っている。	多職種と一緒に訪問し、支援できるように取り組んでいく。
3	検査や評価を総合的に見て、根拠のある支援ができる。	専門的な内容をかみ砕きながら、保護者や担任にわかりやすかつ具体的に評価や利用児の様子などを知らせることができる。	評価等はわかりやすいようにまとめて、保護者や訪問先の先生等に支援の内容などを伝えていく。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	療士が主に行っているため、保育士、教諭の抱えている課題をとらえにくいことがある。	訪問員の職種が限られている。	訪問先の思いをしっかりと把握し、取り組み方の工夫を行っていく。また、保育園、幼稚園、学校の各指導要領などを把握・確認し、訪問先の考えや先生方の業務量も考慮しながら、共に考えていく。
2	利用児への支援が主であるため、ダイバーシティの視点に対してはアプローチできるが、対象児を含めたインクルージョンの支援までには至らないことが多い。	利用児への支援が主になってしまいがちになり、クラスや所属先の一員として捉えにくくなってしまふ。	先生方と連携し、利用児の思いにも寄り添いながら、利用児がクラスの一員として生き生きと過ごせるように、考えていく。
3	保護者の思いに寄り添いがちになってしまう。	利用児の本人像、保育士・教諭が利用児に求めること、保護者の要望をすり合わせることの難しさがある。	介入するときには、本人、保護者、訪問先それぞれの願いや思いをしっかりと聞き、把握しながら取り組んでいく。